

都議会議員 伊藤こういち 通信



豪雨、猛暑、地震対策へ補正予算で緊急対応を！

東京都議会の第3回定例会(9月19日～10月5日)において都議会公明党は、首都直下地震や、局地的豪雨、猛暑などから都民の生命・財産を守る対策を強化する観点から論戦を展開しました。

学校体育館の空調整備、通学路におけるブロック塀の改修、病院の非常用電源確保など、当面する緊急課題を取り上げ、今年度の補正予算を編成し、速やかに対応するよう求めました。本会議代表質問を中心に、主な質疑の要旨を紹介します。

防災対策(補正予算を求める)

学校体育館の空調整備を急げ！

Q1 来年夏に第一陣の整備を間に合わせるため、都は、国や区市町村と連携し、学校体育館への空調整備を急ぐべき。また、給食調理の作業中に高温になる調理室への空調も整備すべき。

A1 学校施設は、非常災害時には地域住民の避難所等としての役割も果たすことから、防災機能の強化は極めて重要。

公立小中学校の体育館への空調設備の整備が進むよう、来年夏からの対応を見据えて補正予算を編成するなど、緊急的な対応を行い、区市町村を支援していく。

なお、給食調理室の空調は、都立学校の改築工事等の計画に合わせ整備するとともに、区市町村に対しても必要な支援を検討していく。



災害拠点連携病院の非常用電源を確保せよ

Q3 災害拠点病院での治療後の患者等を受け入れる災害拠点連携病院は、災害拠点病院を補完する上で重要な役割を担うため、非常用電源の確保を進めるべき。

災害拠点病院

災害時において主に重症者の収容・治療を行う病院
(都内に82病院)

災害拠点連携病院

災害時において主に中等症者や容態の安定した重症者の治療等を行う病院(都内に137病院)

A3 本年発生した台風21号や北海道胆振東部地震では、大規模な停電により、医療機関も大きな影響を受けた。

都は、災害拠点連携病院で今年度、自家発電装置の状況等について、詳細な調査を実施した。その結果を踏まえ、災害拠点連携病院の機能強化に向けた支援について早急に検討していく。

民間のブロック塀の安全対策を！

Q2 通学路に面した民間のブロック塀について、安全性確保に向けた対策を速やかに実行すべき。

A2 大阪北部地震では、ブロック塀の倒壊により、痛ましい事故が発生した。そのため、都有施設について、通学路に面し、倒壊の危険性があるブロック塀は、最優先で撤去する。

また、通学路を含む民間のブロック塀も、所有者による安全対策の取り組みを支援するため、区市町の助成制度等の情報発信を、耐震ポータルサイトを通じて行っており、今後、さらなる支援策についても検討していく。

緊急性の高いものについては、補正予算の編成も視野に入れ、対応していく。

「マイタイムライン」作成への支援を！

Q4 都は、「逃げ遅れゼロ」の実現を目指し、気象予報士や自治体職員、防災士などの専門家の協力を得て、「マイタイムライン」づくりを後押しするワークショップなどの取組を展開していくべき。

A4 都民が水害発生時に逃げ遅れないようするためには、一人ひとりが気象や避難に関する情報を入手し、適切なタイミングで正しく行動することが重要。

専門家の意見を聞きながら、大人から子どもまでの幅広い世代が簡単にマイタイムラインを作成することができる都独自のツールを開発し、広く都民に提供していく。



代表質問に立つ伊藤こういち都議。
(9月26日 都議会本会議場)

風しん防止対策

Q 風しんは、妊娠初期の女性が感染すると先天性風しん症候群になる恐れがある。都は、区市町村や医療機関と連携し一層の予防啓発活動や接種費用への助成を行うなど、感染拡大防止に向け総合的な取組強化に努めるべき。

A 都は、妊娠を予定または希望する女性を対象に、抗体検査と予防接種を一体的に行う区市町村を包括補助で支援している。

今後も、流行状況を注意深く監視しながら、風しんの感染拡大防止を図るため、国や他の自治体、関係機関と連携して必要な対策に取り組んでいく。